

平成25年度
事業計画(案)

自 平成25年4月 1日
至 平成26年3月31日

はじめに

京都染織文化協会では公益社団法人へ移行後、日本の染織文化と染織技術の啓発と継承を目的に一般社会へ向けて様々な事業を行っております。この活動の柱となりますのは当協会の所蔵資料『染織祭衣装（143 領/総勢 1,840 点）』と『全国染織産地合同制作布地（1,089 点）』ですが、特に染織祭衣装は昭和6～15年に亘り行われた染織祭のハイライト「女性時代衣装行列」のために全てが詠えられ、驚くべきことに昭和6～8年のわずか2年という短期間で上古～江戸時代後期までの風俗・技術を考証・再現して制作されました。これは優秀な人材と高い技術力が当時の京都に結集していたからこそ可能となったわけで、その集大成が染織祭衣装といっても過言ではありません。これら衣装は染織技術の継承を検証する上で重要な染織資料として博物館、美術館からも認知されており、当協会では専門家により更なる詳しい調査を行い、その成果を当協会ウェブサイト等により一般社会に公開したり、セミナー等を行って染織大国・京都の認知と高い技術力を広く啓発する継続した取り組みを行っております。

また会員向け事業と致しましては、会員のニーズに合わせた講座の開催や、次代の染織産業の発展に繋がることを目的とした京都ブレス事業での生地開発・製品開発の取り組みに引き続き力を入れていくことで、会員各位の更なる発展の一助となるべく押し進めてまいります。

染織文化・染織技術の啓発と継承は、染織産業そのものの発展に深く関係しており、発展なくしては継承の意味がありません。我々京都染織文化協会は、公益事業と会員事業のバランスを図りながら、次代の染織文化に繋げる事業の取り組みにまい進していく考えです。

会員の皆様方の更なるご協力を切にお願い申し上げます。

平成25年度
事業計画(案)

1. 公益事業

「染織文化資源の保全と啓発事業」

■ 染織技術アーカイブ作成に伴う資料調査

当協会では所蔵している染織祭衣装並びに全国染織産地合同制作布地で使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏め、順次公開する。(継続事業)

<今年度調査対象資料>

- ・「染織祭衣装」一室町時代18領(北川満哉氏(学芸員)による調査、解説)
- ・「全国染織産地合同制作布地」一約10点(福井健二氏(染織専門家)による調査、解説)

■ 「染織祭」の詳細調査並びに公開

昭和6～15年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」について北野裕子氏(龍谷大学非常勤講師)により詳しく調査を行い、その成果を当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』へ情報更新を行い、染織祭並びに染織大国・京都の認知を上げる。(継続事業)

<今年度調査>

- ・昭和15年(染織祭中止)～26年(織協引き渡し)までの染織祭衣装の軌跡

■ 染織祭衣装の補修・修繕

今年度は、平安時代の衣装について次の通り補修・修繕を行う。

<対象衣装>

平安時代衣装「^{あこめ}裃」14点を対象。

<依頼先>

高田装束店京都店(京都市上京区)

■ 染織資料貸付並びに画像貸付協力

美術館、出版社等の要請に応じて衣装現物や画像の貸付協力を行う。

<衣装貸付>

- ・公益性のある美術館、博物館等を対象に貸付。
- ・染織祭衣装については返却後メンテナンス作業が伴うため、貸付期間に関係なく、1領につき1万円のメンテナンス料を徴収する。

<画像貸付>

- ・染織文化・染織技術を啓発する当協会の目的に合った内容の出版物や番組等を対象に無償で貸付ける。

■染織祭衣装に関する展覧会の開催検討

「染織技術等継承事業」

■染織技術啓発のための小冊子の配布（小学生～中学生）

きものとそれに伴う技術を簡単に解説した小冊子を、十三まいり、七五三詣りの場にて参詣者に配布する。

■染織技術等に関するセミナー（大学生・専門学生～一般）

当協会所蔵の染織資料を実際に見てもらい、資料に使われた染織技術をわかりやすく解説するセミナー等を開催する。

今年度は、昨年度より開催している『日本の衣服—技術と風俗を語る—』シリーズを継続し、平安時代、鎌倉時代にスポットを当てた内容で開催する予定。広報については、専門学校・大学には大学教授等経由の他、直接アプローチを行い、一般には当協会ウェブサイトや新聞等に広告を掲載して参加を促す。（年2回予定）

■インターネット上での公開講座（一般）

不特定多数の一般の人々に知識を広めていくため、当協会ウェブサイト上でミニ講座の動画配信を行う。

（ミニ講座）「きもの歴史」シリーズ

（講師）北川満哉氏（学芸員）

（方法）1回の講座は10分迄とし、動画をインターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードして当協会ウェブサイト上にリンクを貼り閲覧する。

「染織技術等継承に関わる助成事業」

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取り組むを行う団体の、営利目的ではない事業で次に該当する事業に助成を行う。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

2. 会員事業

「会員向け講座事業」

会員のために有益な情報を伝える講座を開催する。

染織全般に関する知識向上を目的とし、染織の歴史、文化を学ぶものからマーケティング、ビジネス戦略、次代の染織文化に関することなど、会員の要望に応じて幅広い分野で開催する。(年1回予定)

「染織業界発展事業」

■京都ブレス事業

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた素材を開発し、現代にあった生活用品を提案。1年かけて企画・開発を行い、翌年に展示会を設けて発表する。

今年度は、昨年度開発した2素材（グラスファイバー、特殊撚糸シルク）をもとに、製品見本を制作。国内の有力展示会にて発表し市場の評価を得て、開発品の情報を会員にフィードバックする。

「その他」

当協会会員の加入メリットとして、京都市美術館友の会へ会員登録を行う。